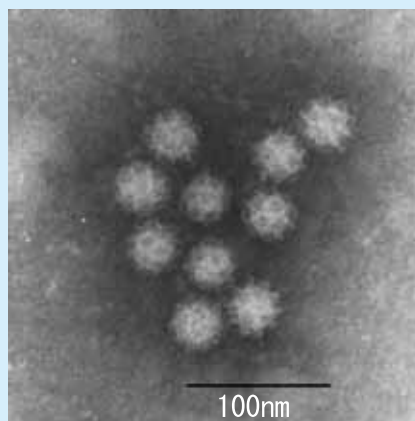


## サポウイルス胃腸炎 ～ノロウイルスかと思いきや～

冬に流行し、嘔吐・下痢などの胃腸炎の原因となることでお馴染みのノロウイルスですが、その仲間にサポウイルスがいます。ノロウイルスの名前の由来がアメリカの“Norwalk（ノーウォーク）”という地名であるのに対し、サポウイルスは“Sapporo（札幌）”が由来です。そう、サポウイルスは日本人によって命名されたウイルスです。ウイルスはとても小さいため肉眼では見えませんが、電子顕微鏡をつかうとサポウイルスが観察でき、その表面には『ダビデの星（☆）』に例えられる綺麗な模様（表面構造）が見られます（図参照）。



図：サポウイルスの電子顕微鏡写真  
（愛媛県立衛生環境研究所 撮影）  
写真中の黒線は長さ 100 ナノメートル。  
サポウイルス粒子は直径約 38 ナノメートル。  
（1 ナノメートルは 100 万分の 1 ミリメートル）

ノロウイルスとサポウイルスは、その感染様式（食中毒またはヒトからヒト）、感染してから病気を起こすまでの潜伏期間（1～2日）、引き起こす胃腸炎症状（嘔吐、下痢、発熱）などがほとんど同じで、感染者の嘔吐物や糞便中には大量のウイルスが含まれています。これまで、サポウイルスによる胃腸炎は、小児が中心ではあるものの発生頻度は稀であり、ノロウイルスによるものと比べると症状が軽いと考えられてきました。ところが、最近では成人にもノロウイルスと同程度の胃腸炎症状を起こす食中毒事件が発生しているため注意が必要です。サポウイルスもノロウイルスも感染予防や拡大防止のポイントは共通で、手洗いなどの日常の衛生管理とともに、ウイルスが含まれる嘔吐物などの適切な処理（マスクや手袋の着用、消毒など）が重要です。現在、当研究所ではノロウイルスと同様にサポウイルスの遺伝子検査も実施しており、検出されたウイルスの流行状況なども解析しています。

ノロウイルス・サポウイルスに関する情報は、以下のサイトで詳細に知ることができます。  
（記載した URL は、平成 26 年 1 月末にアクセスしたものです）

『ノロウイルスに注意しましょう（大阪市保健所）』

[http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/cmsfiles/contents/0000005/5538/H25noro\\_chirashi.pdf](http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/cmsfiles/contents/0000005/5538/H25noro_chirashi.pdf)

『ノロウイルス関連情報（大阪府感染症情報センター）』

<http://www.iph.pref.osaka.jp/infection/noro/noro.html>

『ノロウイルス感染症（国立感染症研究所）』

<http://idsc.nih.gov/jp/disease/norovirus/taio-b.html>

『ノロウイルス関連情報（国立医薬品食品衛生研究所）』

<http://www.nihs.go.jp/fhm/fhm4/fhm4-nov001.html>



（微生物保健グループ 山元誠司）